

アジア研究教育ユニット（特別経費）平成 30 年度教育研究報告書

事業課題名	次世代グローバルワークショップ
代表者名	落合恵美子、安里和晃
事業概要 (600 字程度)	<p>次世代グローバルワークショップは、国際連携大学の次世代研究者（大学院生・PD 研究員等）と国際連携大学の教員が一同に会して開催するもので、世界から集まった同世代の院生や若手研究者の前で、英語で自分の研究成果を発表し、世界の第一線の研究者からコメントを貰うことで、次世代研究者の教育的効果を狙ったものである。国際会議での報告のみならず、司会など運営の経験も積み、さらに英文での論文執筆力を涵養し、ジャーナル投稿への橋渡しとなる重要な機会である。これまで、グローバル COE プログラム「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」の活動の一環として、「国境を越えたクラスメートをつくる」ことを謳い文句に、2008 年から年に 1 度開催し、2013 年からその活動を KUASU が引き継いでいる。今回は 11 回目の開催となり、ジョイントディグリーに合わせた開催とする。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>今年度は第 11 回目の開催であり、Self, Others and Community をテーマとして、11 月 10 日、11 日の 2 日間にわたって実施した。今回は報告者 42 名と大規模な開催となった。京都大学からの参加者は 16 名、他大学参加者は 26 名にのぼった。分科会の数も“New Business Trend”, “Ageing Society and Care”, “International Affairs”, “Culture and Religion”, “Cultural Exchange in East Asia” and “Nationalism”など 14 となった。コメンテーターとなった教員は 14 名と、教員の参加も多かった。ワークショップは大規模の報告者に合わせた分科会方式を取った。また、教育的な観点から各分科会の司会は、参加者の中から依頼をした。</p> <p>毎年好評だが、アドバイザーの研究者からコメントを貰うことで、次世代研究者の教育的効果が期待され、実際に参加者のフィードバックでは大きな効果が得られたとの意見が聞かれた。具体的には以下のとおりである。“Presentations were interdisciplinary and drawn from many interests. This is a necessary movement to break through disciplinary barriers in academia”; “It is a really good experience to gain different information on transcultural and transdisciplinary studies”; and “I was very happy to get useful comments, questions and feedback from other researchers, peers, and professors”.ワークショップの成果として Proceedings を作成し、HP に掲載した。これにより参加者は研究報告と論文執筆の 2 つの業績を上げることができ、貴重な経験となっている。ワークショップの経験は、一人前の研究者として、国際会議での本格的な報告に向けての第一歩になることが期待される。</p>